

採 掘 餘 録（其十）

久 内 清 孝

K. HISAUTI: Botanical Notes (X).

○かさのり培養追記

余ハ本誌 XVI 卷 p. 431ニ於イテ、琉球産かさのりヲ東京ニ於テ培養シテ居ル事實ヲ述ベテ置イタ。マタ、其培養ヲ打切ルト言明シテ置イタ。然レ共、1年モ培養シテ見ルト、今更捨ルノハ、徒ニ生物ノ生命ヲ斷ツ事ニナルノデ、自然ニ枯死スル迄其儘ニスルコトニシテ置キタル所、昨秋ニ至リ、マタ傘ガ出来タノミナラズ、pH 7.2ノ液中ノモノハ其色濃綠色ヲ呈シ、其色が自然ノ状態ノモノニ比シ劣ラザル様ニ思ハレタ。之ニテ、琉球ヨリ來タ同一基物ニ附著シタママノ株カラ、2回ニ亘リ傘ノ發生ヲ見タ次第デアル。マタ、一昨年ニ出来タ傘、即チ琉球カラ來タ當時ノ傘中ニ出来タ包囊ヲ、分離培養シタ液中ニハ、昨秋ニ至リ包囊ヨリ新植物ガ發生シ、本年1月ニ至リ約2cmノ高サニ達シ、其頂部ニハ第一回ノ枝ヲ認ムルニ至ツタ。而シテ其狀 HÄMMERLING 氏ガ Biologischen Zentralblatt 51 Bd. Heft 11 (1931) p. 631ニ掲載セル寫眞ト同一デアルト云ヒ得ル程度ニ近似テ居ルガ、其將來ニ就テハ更メテ記録シタイト思フ。

以上ノ結果カラ見テ、此植物ノ培養ハ極メテ容易デ、何等専門ノ手際ヲ要シナイコトガハツキリシタ。從ツテ、地中海産ノモノガ、培養サレタノモ大シタ事デハ無イ。かさのりナドモ日本人ガ、既ニヤラナカツタノガ手脱リナノデアアル。

○飛驒大白川採藥記追記及ビ訂正

本誌 XVI 卷 9 號ニ掲載シタ、「飛驒大白川採藥記」ノ中デ北濃保安林中ニ、いはつくばねうつぎガアツタ様ニ記シタガ、其レハこつくばねうつぎ、即チ殘存萼片2個ノモノデアツタ。ソレカラ、大白川ノ下流ノ路傍ニ、きんもんさうニ似テ、主葉脈ガ餘リ赤クナク、花ガ小形デ白ク、葉ヤ莖ノ上部ニ毛ノアルモノガアツタ。色々調べタ結果、曾テ杉本順一氏ガ、信州戸隠山デ採ツテ、とがくしきらんさうト命名サレタモノ（挿圖参照）ト同一物デアルカモ知レナイ。然シきんもんさうノ仲間ノ一形ト考ヘテオキタイ。恐ラク其夏形デアラウガ勿論つくばきんもんさうトハ別デアル。ソレカラ、水力取入レロノ少シ上デ、一種ノ柳ヲ得タ、明カニ、ばっこやなぎトおのへやなぎトノ間種デアルト思ツタガ、念

ノ爲メ、木村有香氏ノ意向ヲ尋
ネタ處、同氏モ同様ト考ヘラレ
タ。

笹ニ就テハ、北濃及ビ平瀬ノ
さゞろこしぢぢ、蛭ガ野ノモ
ノハ、ちまきざゞデアルト小泉
源一教授カラ教ヘラレタ。依テ
記シテ好意ヲ謝ス。蛭ガ野ニ
ハ、大戟科ノ 1 草本ガアルガ、
之ハ他ノ產地ノモノト共ニ、他
日古澤潔夫氏カラ發表サレル事
ニナツテ居ル。



飛騨大白山産きんもんそうノ腊葉寫眞 (×2)

雜 錄 Miscellaneous

○松村任三先生ノ小笠原島採集旅行 (津山 尙)

小笠原島ニ日本人ノ植物學者トシテ最初ニ植物採集旅行ヲシタ方ハ 矢田部先生ト松村先生デアル。小生ハコレヲ方々ガ當時如何ナル島々ヲ如何ナル日程デ 採集サレタカラ委シク知リタイト思ツタ。コレハ、小笠原島ノ様ニ植物ノ分布ガ細カニ異ナツテキル所デハ type localityノ問題ニアタツテ、必要ナコトデアル。松村先生ノ書カレタ「故理學博士矢田部良吉君ノ略傳」(植物學雜誌 14 卷、和文 1-4)ニハ「……翌年三月(註、明治 12 年)ニ在ツテハ小笠原島ニ航ジテ之ガ採集ニ從事シ……」トアルノミデアルシ、又中井先生ノ書カレタ「理學博士松村任三氏ノ植物學上ノ事蹟ノ概略」(植物學雜誌 29 卷、和文 342-348)ニハ「……。同十二年三月(註、明治 12 年)矢田部氏ニ隨テ小笠原島ニ採集シ、七月岩代磐梯山、飯豊山ニ十二月相州江ノ島ニ採集ス。」トアル。明治 12 年頃ハ未ダ植物學雜誌モ發刊サレテ居ズ、當時刊行中ノ雜誌デコノコトヲ記錄シテキルカモ知レナイモノ、例ヘバ 東洋學藝雜誌ヤ地學協會雜誌ヲメクツテ見タガ、何等發見スルコトガナカツタ。後ニ服部廣太郎博士ハ小笠原島ノ植物地理ニツイテ委シク研究サレ、Pflanzengeographische Studien über die Bonin Inseln (東京帝國大學紀要、理科、第 23 冊第 10 編、明治 41 年)ヲ發表サレタガ、